

## アーバンベア雑感

教育研修部

池貝 隆宏

TAKAHIRO IKEGAI

仕事柄、月に数回は地方都市を訪問している。産業廃棄物の講習会を地元の協会の方々と協力して開催する業務である。その仕事の合間に、必ず話題に上がるのがクマの出没だ。去年は、アーバンベアなる言葉が頻繁にマスコミに登場し、今年の漢字に熊が選ばれるほど全国的に問題となった。

私は前職のとある自治体で廃棄物業務の担当時にクマ対策にも従事した。人手が足りない出先機関では、廃棄物もクマも環境問題という括りで一つの部署が担当していたからである。昔はクマの出没は月に数回程度だったが、6年ほど前から同時多発が増え始めた。捕獲用の罠は一つしかないから、同時多発したらもうお手上げ。それでも12月に入ると冬眠に入るため出没数は急減したことを記憶している。しかし、今年の冬

はどうやら違うらしい。眠らないアーバンベア…

クマが人里にやってくるのは、そこにおいしいエサがあるから。エサは、生活ゴミの場合もあるが、自分の経験では耕作放棄されたカキやクリなどの場合が多かった。人の生活で不要になったものだから、ある意味、廃棄物とおなじだ。やはり、ゴミを片付けることは何より大切、と感じるこの頃である。



## 編集後記

新年度を迎え、JWセンターは、電子マニフェスト事業、教育研修事業、情報活用事業等において、安定的な運営、資源循環に向けた情報提供及び情報利活用に取り組んでまいります。

本号から1年間、「コラム」は荒井真一様（（一社）環境情報科学センター技術顧問兼常務理事）にご執筆いただきます。

細田衛士様（東海大学学長補佐・政治経済学部経済学科教授）による「連載講義」が始まりました。「日本型循環経済（サーキュラーエコノミー）の道のり」と題し、これまで日本が歩んできた廃棄物処理・リサイクルを踏まえ、日本が歩むべき道筋、展望についてご執筆いただきます。

「欧州の最新動向」では、引き続き北谷様にご執筆いただき、本号ではオランダにおける家畜ふん尿問題と制度転換を採り上げていただいています。

第17回を迎えました「産廃鼎談」では、大野様（エックス都市研究所代表取締役）をお迎えし、日本の環境政策の転換とビジネスへの影響、人口減少等における脱炭素社会の実現等についてもお話いただきました。

最後に、ご多忙の中ご執筆いただきました皆様、記事作成、取材にあたってご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail:jigy@jwnet.or.jp）

### <アンケートへのご協力のお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL [https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi\\_anq/index.html](https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html)

### JWセンター情報（季刊）VOL.26 NO.1

発行日：2026年4月15日発行 発行人：関荘一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号  
上野フロンティアタワー 13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術